

温暖化により被害拡大が危惧される森林・林業病害虫について

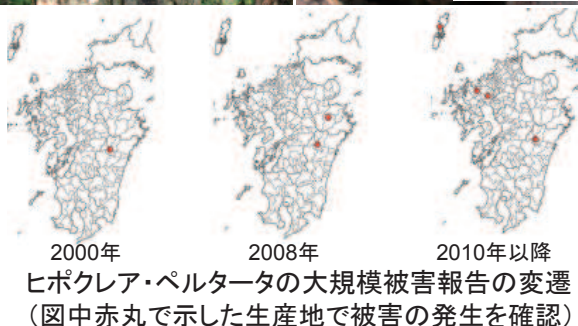
(独)森林総合研究所、山形県森林研究研修センター、
福島県林業研究センター



地球温暖化が農業病害虫に与える影響はよく調べられていますが、林業病害虫への影響は国内ではほとんど調べられていません。本研究では様々な林業病害虫に対する温暖化影響を予測し、被害の拡大が予測されるものについて対応策を検討しています。ここでは、その中から3種についての研究状況を報告します。

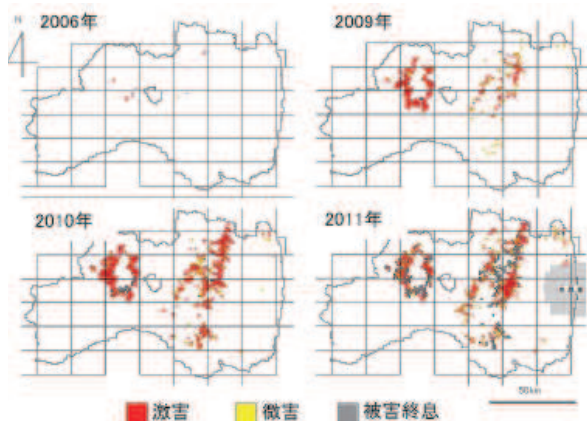
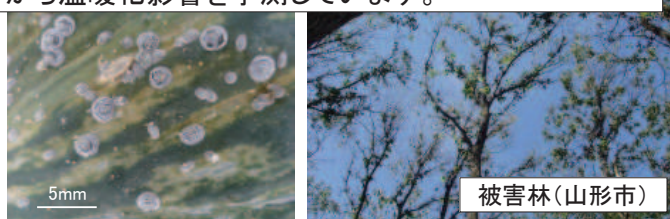
シタケ原木の害菌(ヒポクレア・ペルタータ)

近年、九州のシタケ原木栽培現場で被害が激化しています。夏場の高温と降雨量の増加が影響していると考えられます。九州における被害の変遷と温度データ等から温暖化影響を予測しています。



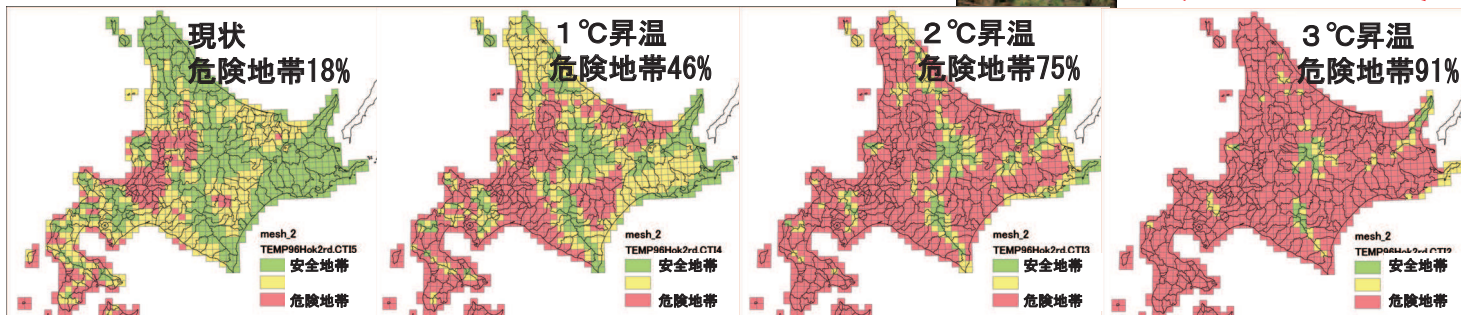
カツラマルカイガラムシ

体長約1mmの小さな昆虫ですが、コナラなどの大木を枯らしめます。2000年頃から東日本で被害が急速に拡大しています。福島県における被害の推移と温度データ等から温暖化影響を予測しています。



トマツオオアブラムシ

北海道におけるトマツ幼齢人工林の害虫。夏の気温が高い所で被害が出ますが、気温が高すぎると発育障害を起こします。そこで、温度と発育の関係を解析して、温暖化影響を予測しました。その結果、危険地帯は大幅に拡大すると予測されました。



問い合わせ先:(独)森林総合研究所 尾崎研一 ozaki@affrc.go.jp